

2023年8月1日

中東関係者各位

九門康之

I

「中東なう」(旧中東レポート) 2023年7月

中東動向の短信レポートです。

中東では地域紛争が継続するなか、コロナ後の経済活動が再開しています。2021年以降の中東での融和の流れは、中東・欧州間にも広がっており、トルコとギリシア、チュニジアとEUで対話・協力の動きがみられます。

➤ トルコ、経済立て直しの効果は、

トルコが経済立て直しを急いでいる。国内では、経済正統派と言われるシムシェキ元財務相を新内閣の財務省に任命、エルカン中央銀行総裁は7月に政策金利(1週間物レポ金利)を15.0%から17.5%に引き上げた。対外的には、エルドアン大統領が中東産油国を歴訪し、アラブ首長国連邦と507億ドルの投資覚書に調印した。実態経済は、6月の消費者物価指数は前年比38.21%とやや沈静化しているが、インフレ傾向は収まっていない。トルコリラは、金利の引き上げが十分でないとの見方もあり、じりじりと値下がりしており、7月末現在では1ドルあたり27リラ前後の水準である。エルドアン大統領は「インフレは金利の引き下げで解消する」という独自の理論を展開してきたが、経済状態は改善しないままである。

➤ ロシアとの関係を強める中東と対抗する米国

中東諸国がロシアとの関係強化に動いている。7月、モスクワでロシアとGCCの外相会議が開催された。GCCはロシアとの関係強化を強調する一方で、ロシアはアラブとイランの関係改善を歓迎した。これに対して、米国はサウジアラビアとイスラエルの国交正常化仲介に注力、サウジアラビアのイランからの引き離しを模索している。中東での動きは、ロシアと米国の綱引きにみえる。なお、サウジアラビアとイスラエルの国交正常化はパレスチナ和平に大きく影響する。中国がイスラエル・パレスチナ間の和平推進に意欲を示しており、中国に対抗する意図もありそうだ。

➤ エチオピア、スーダン問題を機にエジプトと接近

7月、エチオピアのアビィ首相がカイロを訪問した。スーダン紛争について話し合うスーダン周辺国会議に出席するためである。訪問時にエル・シシ大統領と会談し「エチオピアは(ダムで)ナイル流域国に迷惑をかけるつもりはない」と発言。これまでの自国の利益主張から態度を変化させている。

➤ その他の動き

●イラン、上海条約機構に正式加盟 ●スウェーデンでのコーラン焼却に中東諸国で反発の動き広がる ●リビア、漸く選挙への動き ●EU、移民問題につき移民の出身国政府と協力の意向 ●イスラエルのジェニン攻撃にアラブ諸国反発 ●シリアの外交正常化、ヨルダンがトルコとシリアを仲介 ●UAE、バラカ原発向け融資（224 億ドル）更改（融資継続） ●イラク、国内治安が改善。カタールなどと二国間経済協力協議 ●ドバイ、賃貸住宅価格、前月比 22.8%の伸び ●トルコ、ギリシアと会話チャンネルを拡大 ●バハレーン、世界最大の食品カロリー消費国（一人当たり） ●GCC、インドと自由貿易協定協議を再開 ●チュニジア、EU と包括協力協定（EU のサイド大統領への批判的態度から一転） ●

ご参考：情報収集手法

本レポートは、主に中東各国の電子メディアを継続してモニターして得た情報を材料にしています。マクロ経済・金融統計数値の出所は、IMF、地場中央銀行統計等です。コメントは筆者の個人的見解です。

以 上